

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

1 頁
令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02580 歴史博物館等施設管理事業

所属長名 近藤一博
担当者 伊藤基之
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	009	歴史博物館等施設管理事業			
事業期間	平成 2 年度 ～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	安城市歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例				
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター施設管理事業 ・歴史博物館運営事業 ・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター運営事業				

【事業分析】

対象	歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター・安祥城址公園の利用者が
目的	歴史や美術に親しみ、常に快適に利用できるように施設にします。
手段	博物館協議会及び市民ギャラリー運営委員会を開催し運営について意見をいただき、指定管理により施設管理や集客イベント等を行います。
事務内容	歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター・安祥城址公園の管理運営、博物館協議会及び市民ギャラリー運営委員会開催、施設修繕

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		141,533	142,170	505,826
事業費		135,548	136,185	496,376
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	140,000
	一般財源	135,548	136,185	356,376
人件費計		5,985	5,985	9,450
	正規（人）	0.95	0.95	1.50
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	指定管理連絡調整会議（毎月）、博物館防犯カメラ・公園水景施設等修繕、博物館協議会 3 回・ギャラリー運営委員会 2 回開催	指定管理連絡調整会議（毎月）、博物館非構造部材等耐震化及び保全改修設計、博物館公財室音響等修繕、博物館協議会 3 回・ギャラリー運営委員会 2 回開催	指定管理連絡調整会議（毎月）、博物館非構造部材等耐震化及び保全改修工事、博物館協議会 3 回・ギャラリー運営委員会 2 回開催

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

2 頁

令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02580 歴史博物館等施設管理事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
歴史博物館入館者数	人	57,300.00 80,623.00	58,000.00 80,284.00	58,700.00 0.00
市民ギャラリー入館者数	人	153,500.00 162,537.00	157,000.00 217,345.00	160,500.00 0.00
市民ギャラリー展示室利用率	%	65.00 72.90	67.00 76.90	69.00 0.00
埋蔵文化財センター入館者数	人	8,700.00 9,039.00	9,000.00 10,365.00	9,300.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	市の歴史を伝える文化財の保存が必要です		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	入館者数が毎年増えています		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	入館者は目標値を上回っています		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
理由	指定管理者制度を導入しています		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	隣接市に歴史博物館が建設及び計画されています		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	歴史博物館非構造部材等耐震化及び保全等改修工事を実施し、来館者の安全と施設の長寿命化を図り、市民が歴史・芸術文化に興味の持てる拠点として、幅広い文化活動を支援する施設として維持していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

3 頁

令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02581 丈山苑管理事務

所属長名 近藤一博
担当者 石川貴信
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	003	経済			
項目（施策）	003	9 観光			
施策の方針	002	観光資源の活用			
事務事業	001	丈山苑管理事務			
事業期間	平成 8年度 ~				
実施方法	全部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	定住・移住促進
根拠法令等	丈山苑の設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	丈山苑の利用者が
目的	風雅を楽しむ詩作に遊んだ石川丈山のところを四季折々の草木を通じて感じられ、快適に施設を利用できるようになります。
手段	施設管理やイベントの実施を指定管理により行います。
事務内容	指定管理事務、施設修繕

【コスト】

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	38,345	37,451	48,040
事業費	35,195	34,301	43,630
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	35,195	34,301	43,630
人件費計	3,150	3,150	4,410
正規（人）	0.50	0.50	0.70
その他経費	0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	指定管理者連絡調整会議（毎月）、建物修繕、樹木剪定委託	指定管理者連絡調整会議（毎月）、建物修繕、樹木剪定委託	指定管理者連絡調整会議（毎月）、建物修繕、樹木剪定委託

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

4 頁

令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02581 丈山苑管理事務

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
丈山苑入苑者数	人	31,000.00 32,079.00	32,000.00 31,863.00	33,000.00 0.00
苦情件数	件	0.00 1.00	0.00 4.00	0.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	石川丈山を顕彰する施設は当該施設のみです		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	市の観光拠点の一つとなっています		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	目標どおりの入苑者数があります		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
理由	新規事業を企画し入苑者増に結びつけている		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	他自治体の類似施設に比べて呈茶を安価に提供しています		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	市民が施設、庭園などを通じて郷土出身の文人・石川丈山を顕彰できる拠点として維持していきます。また、国外の来苑者の集客にも努めていきます。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

5 頁
令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02582 歴史博物館展示事業

所属長名 近藤一博
担当者 伊藤基之
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	008	歴史博物館展示事業			
事業期間	平成 3 年度 ~				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	博物館法、安城市歴史博物館の設置及び管理に関する条例				
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・ 歴史博物館常設展事業 ・ 歴史博物館特別・企画展事業 ・ 企画展調査事業 ・ 次年度対策事業				

【事業分析】

対象	歴史や文化に関心がある人が
目的	展覧会を観覧することにより安城市や地域の歴史文化に対して理解を深められるようになります。
手段	特別展企画展を年 5 回開催し、記念講演や講座を実施します。また、調査の成果を常設展示に反映させます。
事務内容	特別展企画展・記念講演会開催、常設展管理・展示替え・リニューアル検討

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		41,088	38,477	25,710
事業費		25,653	23,042	11,220
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	401	364	448
	一般財源	25,252	22,678	10,772
人件費計		15,435	15,435	14,490
	正規（人）	2.45	2.45	2.30
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	特別展 3 回、企画展 2 回、記念講演会、常設展展示替え・リニューアル検討、次年度以降展覧会調査	特別展 3 回、企画展 2 回、記念講演会、次年度以降展覧会調査	特別展 1 回、企画展 1 回、記念講演会、次年度以降展覧会調査

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

6 頁

令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02582 歴史博物館展示事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
特別展企画展観覧者数	人	27,500.00 34,034.00	28,500.00 32,772.00	12,000.00 0.00
常設展観覧者数	人	13,000.00 11,485.00	13,500.00 11,463.00	5,800.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	市の歴史・文化の展示は当該市が行うためです		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	市に関わる自主企画を年 4 回を実施しています		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	展示観覧者数は目標値を上回っています		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
理由	集客及び P R を指定管理者により実施しています		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	市域に関わる歴史に重点を置いた企画となっています		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	特別展のうちの一つは、観覧者が 1 万人を超えました。今後も展示内容の充実化に努めることで、さらなる市民の来館が望める施設となると思われます。ただし、常設展観覧者数は目標に達せず、減少傾向にあります。定期的に展示替えを実施していますが、開館30年を経過しようとする中で、リニューアルを実施する時期にきています。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

7 頁
令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価 所属長名 鈴木栄一
所属 0005758020 文化振興課学芸係 担当者 三島一信
事務事業 02583 歴史博物館講座等開催事業 電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	007	歴史博物館講座等開催事業			
事業期間	平成 3 年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	博物館法、安城市歴史博物館の設置及び管理に関する条例				
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・ 歴史博物館体験学習等開催事業 ・ 歴史博物館見学学習・実習等受け入れ事業				

【事業分析】

対象	歴史に関心のある人、市内小中学生、学生が
目的	地域の歴史文化を学習し理解できるようになります。
手段	連続講座・松平シンポジウムを開催し、見学学習・博物館実習をはじめ総合学習の一環として他の学年や市外小中学生、高校生のほか中学生の職場体験を受け入れ、見学学習をサポートするボランティアを育成します。
事務内容	入門講座開催、松平シンポジウム開催、見学学習・職場体験受入、博物館実習実施、博物館ボランティア育成

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		8,455	8,449	2,534
事業費		580	574	644
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	13	6	10
	一般財源	567	568	634
人件費計		7,875	7,875	1,890
	正規（人）	1.25	1.25	0.30
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	入門講座（1テーマ） 、連続講座（2テーマ） 、松平シンポジウム 、見学学習、体験学習 、博物館実習、博物館 ボランティア例会・養成	入門講座（1テーマ） 、連続講座（2テーマ） 、松平シンポジウム 、見学学習、体験学習 、博物館実習、博物館 ボランティア例会・養成	入門講座（1テーマ） 、連続講座（1テーマ） 、見学学習、体験学習 、博物館実習、博物館 ボランティア例会・養成

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

8 頁
令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02583 歴史博物館講座等開催事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
連続講座等聴講率	%	90.00 100.00	91.00 90.00	92.00 0.00
小中学生来館者数	人	4,000.00 4,195.00	4,100.00 4,186.00	3,800.00 0.00
博物館ボランティア活動参加者数	人	200.00 204.00	220.00 217.00	190.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
2	理由	市の歴史に関する講座です	
2	必要性	市民ニーズの有無	1
3	理由	定員を超える聴講者があります	
3	有効性	目標に対する進捗状況	1
4	理由	目標どおりの聴講率です	
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1
5	理由	定番の講座は維持し、市民ニーズを考えた講座を企画しています	
5	公平性	事業規模・サービス水準	1
	理由	大学教授クラスによる講座を充実させています	

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	博物館の講座は人気が高く、展示での記念講演会の開講日には特に展示観覧者も増加するという相乗効果があります。また安城市域や三河の歴史文化を理解するためには、展示だけではなく講座などでより深く理解してもらう必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

評価年度平成30年度進捗区分2次評価

所属0005758020文化振興課学芸係

事務事業02584歴史博物館運営事業

所属長名近藤一博

担当者伊藤基之

電話番号0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	006	歴史博物館運営事業			
事業期間	平成 3年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	博物館法、安城市歴史博物館の設置及び管理に関する条例				
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・歴史博物館情報提供事業　・歴史博物館収蔵品購入事業				

【事業分析】

対象	地域の歴史文化に関心のある人が
目的	調査研究ができ、貴重な歴史資料を適切な環境で保存することで、実物資料を見ることができるようになります。
手段	展示室・収蔵庫の環境管理及び資料くん蒸などにより収蔵資料の保存をはかります。
事務内容	文献資料室運営、展示室環境管理、収蔵品の購入、収蔵資料修繕、くん蒸

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		17,690	17,915	19,260
事業費		10,760	10,985	12,330
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1	1	1
	一般財源	10,759	10,984	12,329
人件費計		6,930	6,930	6,930
	正規（人）	1.10	1.10	1.10
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	歴史資料・参考資料購入、くん蒸（7回）、収蔵庫・展示室環境保全業務（5回）・真菌検査（2回）、I P M 研修参加、文献資料室運営管理	歴史資料・参考資料購入、くん蒸（7回）、収蔵庫・展示室環境保全業務（5回）・真菌検査（2回）、I P M 研修参加、文献資料室運営管理	歴史資料・参考資料購入、くん蒸（6回）、収蔵庫・展示室環境保全業務（2回）・真菌検査（2回）、I P M 研修参加、文献資料室運営管理

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

10 頁
令和元年 8月16日
19時18分22秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02584 歴史博物館運営事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
博物館収蔵資料点数	点	84,000.00 82,318.00	85,000.00 85,851.00	86,000.00 0.00
文献資料室収蔵資料点数	点	55,000.00 54,066.00	56,000.00 56,056.00	57,000.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	収蔵資料の保存管理が必要です		
2	必要性	市民ニーズの有無	1
理由	市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である		
3	有効性	目標に対する進捗状況	1
理由	展示資料の観覧、研究目的の資料閲覧、文献利用があります		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	2
理由	目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている		
5	公平性	事業規模・サービス水準	1
理由	企画展示室の温湿度管理が現在の機器では難しいです		
	環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。		
理由	収蔵資料から企画展示を実施しています		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	博物館を運営、発展させるためには、市域の様々な資料を収集することが必要です。また収蔵資料を後世に残すため、適切な保存環境に維持が必要です。そのための職員の知識取得のための研修も必要となっています。さらに、積極的に資料を整理して情報を公開し、またそれを展示等で市民に還元する責務もあります。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価

所属 0005758020 文化振興課学芸係

事務事業 02585 史料整理活用事業

所属長名 近藤一博

担当者 三島一信

電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	005	史料整理活用事業			
事業期間	平成20年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考					

【事業分析】

対象	安城の歴史や文化に興味のある人が
目的	市内の文献資料を通してより深く関心をもてるようになります。
手段	市史編さん事業により刊行した新編安城市史等の幅広い活用を促すとともに、執筆の根拠となった古文書等の資料、マイクロフィルム、複製コピーなどの貴重な歴史的財産を整理・保存・公開します。また、未だ旧家・町内会・寺社等には未公開・未整理の貴重な歴史資料が多数存在し、それらの調査・整理・保存・公開を行います。
事務内容	収蔵・寄託資料管理、収蔵等資料整理、資料調査、文書史料集成刊行

【コスト】

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	17,055	17,444	21,172
事業費	12,330	12,719	14,242
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	12,330	12,719	14,242
人件費計	4,725	4,725	6,930
正規（人）	0.75	0.75	1.10
その他経費	0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
資料調査・受入・整理 ・研究・収蔵、文書史料集成刊行	資料調査・受入・整理 ・研究・収蔵、文書史料集成刊行	資料調査・受入・整理 ・研究・収蔵、文書史料集成刊行	資料調査・受入・整理 ・研究・収蔵、文書史料集成刊行
【事務事業活動実績】			

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02585 史料整理活用事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
博物館収蔵資料点数	点	84,000.00 82,318.00	85,000.00 85,351.00	89,000.00 0.00
資料整理点数	点	12,000.00 10,593.00	12,000.00 6,720.00	12,000.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
2	理由	市域の歴史資料は当該市で調査・収集・保存します	
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
3	理由	市域の歴史を知るための支援をしています	
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	2
4	理由	点数の多い資料群の整理が追いついていません。	
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
5	理由	資料整理員の能力向上に努めています	
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
	理由	他自治体以上に資料を収集整理保存する機能を有しています	

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	既に収蔵されている資料が多く、その資料の整理、目録化を急いで進めるべく目標値を高く設定しています。毎年の数値が高下するのは、資料群（何家文書などの一群）の整理が終了した段階でカウントするためです。市域の都市化に伴い古い家屋の解体が進んでいるため、貴重な資料が廃棄等される前の調査収集活動が必要となっています。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

1 頁

令和元年 8月16日
19時19分46秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02586 文化財啓発事業

所属長名 近藤一博
担当者 齋藤弘之
電話番号 0566-77-4477

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	004	文化財啓発事業			
事業期間	昭和36年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健康事業	きっかけづくり	マニフェスト	○	地方創生	定住・移住促進
根拠法令等					
備考	平成 2 9 年度からは、安祥文化のさとまつりが指定管理者の事業になりました。				

【事業分析】

対象	将来にわたって文化財の価値を享受する全ての市民が、
目的	地域の歴史から啓発を受け、歴史を「核」にしてまとめることで、郷土愛（シビック・プライド）を醸成することができます。また、対象が市外に広がることにより、市外からの観光客から評価を得られるようになります。同時に、ウォーキングによる健康都市推進の要素もあります。
手段	調査研究結果に基づき、各種講座の実施やパンフレットの作成と配布、埋蔵文化財センターでの展示、ボランティア団体との協働や育成などを行うことにより、市民が安城の歴史の価値を理解できるようにします。また、ウォーキングコース（歴史の散歩道）の整備やイベント（歴史ウォーク）によって、健康都市づくりを実現します。さらに、地域や学校との連携や協働も行っています。
事務内容	夏休み考古学講座やおおぞら歴史教室などの各種講座（出前講座を含む）の企画と実施、本證寺フェスティバル等の企画と参加、展示の企画と実施およびパンフレットの作成、歴史の散歩道整備と歴史ウォークの企画と開催、各ボランティア団体との協働や育成、地域のイベントへや中学校総合学習への協力など。

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		14,963	13,132	15,401
事業費		4,253	4,312	5,321
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	4,253	4,312	5,321
人件費計		10,710	8,820	10,080
	正規（人）	1.70	1.40	1.60
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	各種出前講座 土器づくり教室 夏休みこども考古学教室 おおぞら歴史教室 歴史の散歩道（10種） 歴史の散歩道アップグレード事業	各種出前講座 土器づくり教室 夏休みこども考古学教室 おおぞら歴史教室 歴史の散歩道（10種） 歴史の散歩道アップグレード事業 やきものヒストリー	各種出前講座 土器づくり教室 夏休みこども考古学教室 おおぞら歴史教室 歴史の散歩道（10種） 歴史の散歩道アップグレード事業 やきものヒストリー

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

2 頁

令和元年 8月16日
19時19分46秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02586 文化財啓発事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
文化財関連事業参加者数	人	18,000.00 21,559.00	19,000.00 18,498.00	20,000.00 0.00
新聞、ＴＶなどの登場回数	回	9.00 22.00	10.00 24.00	11.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	地域に密着し、専門性を有している団体は他にありません。		
2	必要性	市民ニーズの有無	1
理由	市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である		
3	有効性	目標に対する進捗状況	2
理由	目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1
理由	安祥文化のさとまつりが台風で中止となり参加者が減少しました。		
5	公平性	事業規模・サービス水準	1
理由	他市との共同で「愛知やきものヒストリー」へ参加しました。 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。		
理由	ボランティア団体との協働を進めています。		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	拡充
1 次コメント (4 0 0 文字)	歴史文化への関心や誇りの醸成に直接かかわる事業という意味で、今後は拡充が求められる事業です。 ただし、市は専門的分野、先進的分野に特化し、他はボランティア団体等と協働する形で進めていくべきと考えています。また、平成30年度からは、県内の博物館、資料館等と共同して「愛知やきものヒストリー」というスタンプラリーをはじめました。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02587 文化財保護事業

所属長名 近藤一博
担当者 齋藤弘之
電話番号 0566-77-4477

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	003	文化財保護事業			
事業期間	昭和39年度 ～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的 / 政策的	性質別費目	
健全事業	きっかけづくり	マニフェスト		地方創生	定住・移住促進
根拠法令等	文化財保護法、愛知県文化財保護条例、安城市文化財保護条例				
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を分割・統合しています。 ・文化財保護事業（分割） ・文化財保存事業（統合） ・文化財調査事業（統合） ・郷土史出版奨励事業（統合）				

【事業分析】

対象	将来にわたって文化財の価値を享受する全ての市民が、
目的	文化財を保存し、整備・活用することによって、その価値を享受できるようになります。このように市民が文化財の価値を「共有」することで、地域への誇りが芽生え、関心が高まり、連帯感が生まれます。
手段	総務的内容、調査的内容、保存的内容の 3 つに分けられます。総務的内容では、文化財指定やそのための文化財保護委員会運営、史跡説明看板のリニューアル、天然記念物害虫駆除などがあります。調査的内容では、歴史的建造物の調査（大学等への委託による調査を含む）を行っています。保存的内容では、無形民俗文化財の保存団体や、有形文化財の所有者、郷土史に関する書籍等の出版される市民への補助金を交付しています。
事務内容	文化財指定や現状変更に関する事務、文化財保護委員会の運営事務、史跡説明看板のリニューアルや天然記念物害虫駆除の委託業務のための事務、調査等を委託する場合の事務、様々な補助金交付事務があります。

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		18,856	17,426	19,839
事業費		11,926	10,496	11,019
	国庫支出金	0	1,286	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	11,926	9,210	11,019
人件費計		6,930	6,930	8,820
	正規（人）	1.10	1.10	1.40
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	文化財保護委員会運営 史跡説明看板リニューアル 天然記念物害虫駆除 文化財悉皆調査 無形民俗文化財保存伝承・有形文化財修理補助金交付 郷土史出版奨励事業補助金交付	文化財保護委員会運営 史跡説明看板リニューアル 天然記念物害虫駆除 文化財悉皆調査 無形民俗文化財保存伝承・有形文化財修理補助金交付 人面文壺形土器修繕	文化財保護委員会運営 史跡説明看板リニューアル 天然記念物害虫駆除 文化財悉皆調査 無形民俗文化財保存伝承・有形文化財修理補助金交付 文化振興計画策定

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

4 頁

令和元年 8月16日
19時19分46秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02587 文化財保護事業

【 定量評価 】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指定および登録文化財の件数	件	238.00 238.00	240.00 243.00	242.00 0.00
歴史・文化に愛着や誇りを感じる人の割合	%	40.00 39.20	41.00 0.00	42.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
2	理由	地域へ密着したものは市のみです。	
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
3	理由	文化財保護へのニーズは高まりつつあります。	
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	2
4	理由	29年度の評価結果です。元年度は調査中です。	
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
5	理由	人面文壺形土器の修繕は入札により経費を削減しました。	
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
	理由	文化財保護委員の数は最大15人ですが、適正規模の10人です。	

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	改善を行いながら、維持・継続が必要な事業です。 今後は、より一層の市民の理解を得ていくとともに、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの財源を検討していく必要があります。 市民アンケートによる「歴史・文化に愛着や誇りを感じる人の割合」の調査は2年に1度で、30年度は調査がありませんでした。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

5 頁

令和元年 8月16日
19時19分46秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02588 史跡整備事業

所属長名 近藤一博
担当者 齋藤弘之
電話番号 0566-77-4477

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	002	史跡整備事業			
事業期間	昭和36年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的 / 政策的	性質別費目	
健全事業	きっかけづくり	マニフェスト	○	地方創生	定住・移住促進
根拠法令等	文化財保護法、愛知県文化財保護条例、安城市文化財保護条例				
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業から分離、独立させています。 ・文化財保護事業				

【事業分析】

対象	史跡の価値を共有できる全ての市民が、
目的	史跡を活用できるように整備することで、その価値を理解し、誇りが生まれることを目指します。さらに、整備された史跡が、「まちづくり」（市民参加による地域創造）の中心となるようにします。
手段	まず、史跡を開発から守り保存するために公有化（用地買収）を行います。次に、その史跡が崩落等によって価値を損なうことがないとともに、市民が見て価値がわかるように整備（ハード）します。同時に、そこで市民が「まちづくり」が可能なような仕組み（ソフト）も整えます。
事務内容	土地公有化については用地買収事務、ハードの整備については計画立案とともに有識者からの意見聴取や具体的な整備工事の実施があります。また、「まちづくり」についてはワークショップの実施やイベントの開催（参加）などがあります。

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		76,573	260,088	137,951
事業費		69,643	251,268	126,611
	国庫支出金	50,363	182,621	75,436
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	19,280	68,647	51,175
人件費計		6,930	8,820	11,340
	正規（人）	1.10	1.40	1.80
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	本證寺境内土地公有化 姫小川古墳崩落防止対策検討会議開催 姫小川古墳土地鑑定および物件補償調査	本證寺境内土地公有化 本證寺ワークショップ実施 姫小川古墳土地公有化 姫小川古墳崩落防止対策検討会議開催	本證寺境内土地公有化 本證寺ワークショップ実施 本證寺史跡公園整備検討会議 姫小川古墳崩落防止対策検討会議開催

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

6 頁

令和元年 8月16日
19時19分46秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02588 史跡整備事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
土地公有化面積の計画達成率	%	100.00 100.00	100.00 100.00	100.00 0.00

【 定性評価 】

	カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	史跡の公有化と史跡公園整備は、地方公共団体の事業です。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
			2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	史跡整備や歴史まちづくりのニーズは高まっています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
			2 目標を下回る進捗状況である	
			3 進捗はかなり遅れている	
理由	史跡公有化（用地買収）は順調です。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
			2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	国庫補助金を可能な範囲で申請しています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他自治体においても、史跡整備は注目されています。			

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	拡充
1 次コメント (4 0 0 文字)	文化財保護や史跡整備は、今後注目されていく事業です。 平成30年度からはワークショップ「未来寺子屋」を始めました。史跡整備が単なるハードの整備に終るのではなく、市民参加と協働による地域創造である「歴史まちづくり」によって、市民に誇りを与えられるような存在になるようにしていくものです。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

7 頁

令和元年 8月16日
19時19分46秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02589 埋蔵文化財調査事業

所属長名 近藤一博
担当者 齋藤弘之
電話番号 0566-77-4477

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	001	埋蔵文化財調査事業			
事業期間	昭和26年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	定住・移住促進
根拠法令等	文化財保護法、安城市埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	将来にわたって埋蔵文化財の価値を享受する全ての市民が、
目的	遺跡が保存されたり、発掘調査によってその価値を知ること、地域への関心と誇りを得ることができます。文化財保護法により、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を開発（土木工事）する場合は、事前調査が必要です。
手段	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を開発（土木工事）する場合、提出される申請書の受け付け、指導、処理を行います。可能な限り開発による破壊を回避する指導を行います。困難な場合は事前の試掘調査と発掘調査（記録保存）をしています。調査後は、調査成果を整理、研究し、報告書を刊行するとともに、出土遺物は収蔵保存を行います。そして、その発掘成果を市民にフィードバックしています。
事務内容	埋蔵文化財包蔵地発掘の申請書受け付け、指導、処理、発掘調査（試掘・本発掘および立会い調査）、出土遺物の整理、調査研究、発掘報告書の刊行など。

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		74,523	69,135	91,159
事業費		61,293	55,905	77,299
	国庫支出金	3,000	2,955	3,080
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	15,066	6,543	18,200
	一般財源	43,227	46,407	56,019
人件費計		13,230	13,230	13,860
	正規（人）	2.10	2.10	2.20
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	桜井駅周辺土地区画整理事業発掘調査 本證寺境内確認調査 塚越古墳範囲確認調査	開発に伴う市内遺跡発掘調査 姫小川古墳発掘調査 本證寺境内確認調査 桜井駅周辺土地区画整理事業発掘調査	開発に伴う市内遺跡発掘調査 本證寺境内確認調査 古井町都市公園確認調査 桜井駅周辺土地区画整理事業発掘調査

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

8 頁

令和元年 8月16日
19時19分46秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02589 埋蔵文化財調査事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
住宅着工前に発掘調査を終えることのできなかった件数	件	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
発掘調査の成果等がマスコミで取り上げられた件数	件	1.00 3.00	1.00 2.00	1.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	県埋文センターとの住みわけが来ています。		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	遺跡を住宅開発する事案は増加傾向にあります。		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	数値目標は達成しています。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
理由	委託や外注が可能な部分は実施済みです。		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	小規模な発掘調査が中心で、適正規模を維持しています。		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	個人の住宅開発とともに、史跡整備の情報収集のための発掘調査も行う事業で、今後も維持・継続が求められます。 安城市では、現在でも人口増加・流入による遺跡の開発に伴う発掘調査が中心です。しかし、長期的には、史跡整備に伴う情報収集のための発掘調査に、徐々にシフトしていくものと予想されます。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

1 頁

令和元年 8月16日
19時20分57秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02590 文化活動団体支援事業

所属長名 近藤 一博
担当者 畑中 良成
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信			
事務事業	005	文化活動団体支援事業			
事業期間	平成元年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業	きっかけづくり	マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	安城市補助金等の予算執行に関する規則 安城文化協会補助金交付要綱				
備考					

【事業分析】

対象	文化協会が
目的	財政的基盤を充実させ、加盟する団体、個人の活動も活性化し、芸術文化の交流が深まります。
手段	文化活動団体を支援し、広く市民の文化活動を活性化させ、生涯にわたり、健康に芸術や文化に取り組める基盤を作ります。近年文化団体の減少傾向がありますが、安城の文化を支える文化団体の火を絶やさぬように方向性を模索しながら助成を実施します。
事務内容	助成金交付事務（職員人件費の部分があるため前金払いで、年間を2回に分けて支払います。）

【コスト】

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	4,220	5,905	4,520
事業費	1,700	3,385	2,000
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	1,700	3,385	2,000
人件費計	2,520	2,520	2,520
正規（人）	0.40	0.40	0.40
その他経費	0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	・文化協会の育成 ・今後の文化協会につ いての検討 ・平成30年度西三文 協芸能まつりの準備 ・文協祭の実施 ・市民芸術祭委託事業 ・文人展、こあ展	・文化協会の育成 ・今後の文化協会につ いての検討 ・平成30年度西三文 協芸能まつりの実施 ・文協祭の実施 ・市民芸術祭委託事業 ・文人展、こあ展	・文化協会の育成 ・今後の文化協会につ いての検討 ・文協祭の実施 ・市民芸術祭委託事業 ・文人展、こあ展

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

2 頁

令和元年 8月16日
19時20分57秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02590 文化活動団体支援事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
文化協会加盟団体数	団体	90.00 83.00	88.00 80.00	88.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
2	理由	市民による芸術団体の活動をまとめる文化協会の補助金支援です。	
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
3	理由	安城市の文化を支える団体で、広く市民の参加があります。	
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	2
4	理由	高齢化で団体数が減少傾向にありますが、新規の団体もあります。	
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
5	理由	市民芸術祭の部門により、参加者及び来場者増に貢献しています。	
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
	理由	近隣市の文化協会と比較し、適正と考えられます。	

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	文化協会に秋の芸術祭を委託して 4 年目になりますが、「文芸まつり」の俳句、短歌の応募者数は年々増加傾向にあり、今年も作品を提出しやすいように応募はがきを作成するなど改善しています。また「文芸・技芸・趣味の集い」と「芸能まつり」の来場者数は年によって増減がありますので、会場の変更、日程の調整など工夫して増やしていきたいと考えています。昨年度より始まった文化活動団体等激励金の予算額を今年度増額し、文化活動で功績を残した青少年を支援します。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

3 頁

令和元年 8月16日
19時20分57秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02591 市民ギャラリー美術品購入事業

所属長名 近藤 一博
担当者 峯村 敏
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	001	1 5 文化・芸術その他			
事務事業	001	市民ギャラリー美術品購入事業			
事業期間	昭和57年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業	きっかけづくり	マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	安城市附属機関の設置に関する条例（安城市条例第34号）第5条				
備考					

【事業分析】

対象	市民が
目的	地元に縁の深い作家の貴重な作品を鑑賞できます。
手段	安城市が所有するにふさわしい貴重な美術作品を調査研究し購入を進めます。購入した作品は、展示会を実施し、市民の皆さまにご鑑賞いただきます。平成30年度までに231点の美術作品を購入しました。
事務内容	地元安城ゆかりの作家を中心に調査、安城市民ギャラリー美術品等収蔵委員会にて検討、作品確認（内覧）

【コスト】

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	3,678	3,168	4,161
事業費	2,418	1,908	2,901
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	2,418	1,908	2,901
人件費計	1,260	1,260	1,260
正規（人）	0.20	0.20	0.20
その他経費	0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	29年度は備品購入費の中で収蔵作品を納めるための額装棚を購入、美術品等収蔵検討委員会にて安美展の最高賞の受賞作品及び、小作品の購入、寄贈作品について検討しました。	美術品等収蔵検討委員会において、地元の作家で全国公募展等の受賞作品や入選作品及び、寄贈作品について検討しました。	安美展の最高賞の受賞作品及び、地元の作家で全国公募展等で受賞した作品を対象に検討します。

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

4 頁

令和元年 8月16日
19時20分57秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02591 市民ギャラリー美術品購入事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
展示作品点数	点	32.00 35.00	32.00 46.00	32.00 0.00
観覧者数	人	5,500.00 5,742.00	4,000.00 3,351.00	3,700.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	安城ゆかりの作品を収蔵するため安城市が実施する必要があります		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	地元作家等の貴重な作品を市民にご覧いただきます。		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	2
理由	展示期間中台風の影響もあり来場者に影響がありました。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
理由	希少価値のある作品や物故作家の貴重な作品を収蔵できました。		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	市の収蔵作品を、広く市民の皆様に無料で鑑賞いただいています。		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	安城市にふさわしいゆかりの美術作家の作品の購入や寄贈について検討し、美術作品を企画展示などでできるだけ多く紹介し、市民の皆様に地元作家の存在や美術のすばらしさを感じていただけるよう、工夫を凝らして展開していきます。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

5 頁

令和元年 8月16日
19時20分57秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02592 芸術鑑賞会事業

所属長名 近藤 一博
担当者 澤原 和典
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信			
事務事業	004	芸術鑑賞会事業			
事業期間	平成元年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業から名称変更しています。 ・市民芸術鑑賞会事業				

【事業分析】

対象	芸術文化に興味をもつ市民が
目的	優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることができます。
手段	古典芸能や伝統芸能、クラシック音楽などの鑑賞会を実施します。質の高い芸能分野の舞台公演を身近に鑑賞いただき、伝統芸能・芸術のすばらしさを感じていただきます。
事務内容	前回開催のアンケートを参考に事業内容の検討、出演団体交渉、契約事務、広報PR、チラシ作成、チケット発売、開催実施、アンケート集計、実施報告

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		16,238	11,369	10,837
事業費		9,308	4,439	3,907
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	2,110	931	263
	一般財源	7,198	3,508	3,644
人件費計		6,930	6,930	6,930
	正規（人）	1.10	1.10	1.10
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	2 9 年度：市制 6 5 周年記念事業として、「ベートーヴェン第九交響曲演奏会」を実施。市内小中学校アウトリーチ事業、安城市吹奏楽フェスティバルを実施しました。	3 0 年度：「鈴木優人 & バッハ・コレギウム・ジャパン」を実施。市内小中学校アウトリーチ事業、安城市吹奏楽フェスティバルを実施しました。	3 1 年度：こどもオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を実施。市内小中学校アウトリーチ事業、安城市吹奏楽フェスティバルも継続して実施します。

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

6 頁

令和元年 8月16日
19時20分57秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02592 芸術鑑賞会事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
チケット販売枚数	枚	819.00 1,037.00	400.00 421.00	400.00 0.00
アンケートによる満足度	%	80.00 88.00	80.00 95.00	80.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	市民吹奏楽は市民及び市内小中学校吹奏楽団による演奏会です。		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	毎年多くの入場者があります。		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	入場者数及びアンケートでも良い結果でした。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
理由	31年度より吹フェスを実行委員会から市の運営へ変更予定です。		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	練習を重ねて高い水準の音楽を提供しています。		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	平成31（令和元）年度は、文化センターにて、こどもオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を開催します。0歳から入場可とし、幼児期からクラシック音楽に慣れ親しんでもらえるよう、上質な演奏・歌唱の鑑賞機会を提供します。 吹奏楽フェスティバルは、市民会館にて、市民及び市内小中学校、高等学校吹奏楽団による27回目の演奏会を実施します。昨年度までの実行委員会形式から市の運営事業に変更して運営します。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

7 頁
令和元年 8月16日
19時20分57秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価 所属長名 近藤 一博
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係 担当者 澤原 和典
事務事業 02593 文化芸術協働事業 電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信			
事務事業	003	文化芸術協働事業			
事業期間	昭和21年度 ~				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・市民芸術祭事業 ・市民演劇祭事業 ・安美展事業 ・市民公募文化事業				

【事業分析】

対象	芸術分野、技芸・芸能に興味があり、自ら創作する、上演する、演技することを望む市民が
目的	自作品の発表や展示、自らの技芸の披露、団体で企画した演劇の公演等をする機会を得ることができます。
手段	作品発表・展示の場を設けたり、技芸や演劇を披露する公演の場所を提供することで、市民の文化水準の向上と、それらの作品や技芸、演劇を鑑賞する機会の充実を図ります。
事務内容	・市民文芸まつり、市民芸能まつり、文芸・技芸・趣味の集いの 3 事業を安城文化協会に委託し、円滑な運営に協力 ・安美展・市民演劇祭の企画・募集・展示及び公演実施 ・市民公募文化事業の企画・募集・審査と公演までの周知啓発の補助

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		16,256	16,748	16,839
事業費		8,066	8,558	8,649
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	8,066	8,558	8,649
人件費計		8,190	8,190	8,190
	正規（人）	1.30	1.30	1.30
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	・市民芸術祭・安美展の開催（安城文化協会委託事業） ・市民演劇祭の開催 ・市民公募文化事業の募集、採択、補助	・市民芸術祭・安美展の開催（安城文化協会委託事業） ・市民演劇祭の開催 ・市民公募文化事業の募集、採択、補助	・市民芸術祭・安美展の開催（安城文化協会委託事業） ・市民演劇祭の開催 ・市民公募文化事業の募集、採択、補助

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

8 頁

令和元年 8月16日
19時20分57秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02593 文化芸術協働事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
市民芸術祭の出演および出展者数・観覧者数	人	29,700.00 30,846.00	29,800.00 27,746.00	29,800.00 0.00
市民演劇祭の参加団体数	団体	8.00 9.00	8.00 13.00	10.00 0.00
市民公募文化事業の公演件数	回	7.00 7.00	7.00 9.00	7.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	市民から公募して実施する事業が主体となっています。		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	団体ごとの計画年次で市民公募文化事業の申請があります。		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	目標値を達成できています。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
理由	31年度から演劇祭の出演団体数の上限を定めて効率化します。		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	市民公募文化事業の申請団体が増え、観客動員も増えました。		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	演劇祭は、改修が終わって、文化センターが使えるようになり、前年、前々年より参加団体が増え、入場者も多く、盛大に開催出来ました。補助事業の市民公募文化事業参加団体も例年になく多く、9 団体が公演を行いました。なお、周年事業や実施間年次のタイミングが重なって参加団体が多かったためであり、31年度は例年実績相当 5 団体の参加が予定されています。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

9 頁
令和元年 8月16日
19時20分58秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02594 市民ギャラリー講座事業

所属長名 近藤 一博
担当者 峯村 敏
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信			
事務事業	002	市民ギャラリー講座事業			
事業期間	平成15年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業	きっかけづくり	マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考					

【事業分析】

対象	美術創作活動に意欲のある市民が
目的	質の高い創作活動の機会を得ながら学ぶことができます。
手段	多くの市民に美術に親しんでもらい制作意欲を高めていただき、生きがいを持って健康に暮らせ、将来の担い手となる感性豊かな人材を育てていく場を美術講座を通して提供します。
事務内容	計画（子ども向け、一般向け、親子向け）美術講座、講師選定、P R 事務、参加者案内、材料準備事務、開催実施事務、（作品展示）、アンケート集計、報告事務

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		11,780	11,169	11,234
事業費		1,700	1,719	1,784
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	872	926	960
	一般財源	828	793	824
人件費計		10,080	9,450	9,450
	正規（人）	1.60	1.50	1.50
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	美術講座の企画推進に関する業務。講座内容検討、講師打合せ、PR、実施、アンケートの集計 15講座、978人(延参加者数)	美術講座の企画推進に関する業務。講座内容検討、講師打合せ、PR、実施、アンケートの集計 14講座、1,076人（延参加者数）	美術講座の企画推進に関する業務（日程、講師選定など）。講座内容検討、講師打合せ、PR、実施、アンケートの集計 14講座実施予定

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

10 頁
令和元年 8月16日
19時20分58秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02594 市民ギャラリー講座事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
参加者数	人	170.00 212.00	180.00 225.00	190.00 0.00
結果アンケート	%	85.00 97.00	87.00 95.00	88.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	2
2	理由	安美展など市の事業と関連付けながら展開しています。	
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
3	理由	毎回定員を超える講座事業等もあります。	
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
4	理由	アンケートでも高い評価をいただいています。	
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
5	理由	内容等マンネリ化しないように検討しています。	
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
	理由	材料費等、受益者負担を基本とし事業を展開しています。	

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	美術講座事業は、順調に進められています。デッサンなど同様な講座でも、少し内容に変化を持たせながら、レベルアップを図るなど参加者のニーズを取り入れながら実施しています。受講者の中から、安美展の出品者や受賞者を輩出するなど受講者の中には目標をもって活動されている人もいます。時代や市民の要望に即しながら、今後も実施して行きます。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02595 市民ギャラリー企画展事業

所属長名 近藤 一博
担当者 山本 育恵
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信			
事務事業	001	市民ギャラリー企画展事業			
事業期間	平成16年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考		平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・市民ギャラリー郷土作家展事業 ・市民ギャラリーコレクション展事業			

【事業分析】

対象	文化芸術に関心のある市民が
目的	郷土の作家を中心とした美術作品を鑑賞する機会を得ることができます。
手段	年 3 回程度、市が所蔵する美術作品を中心に展示する企画展を開催します。郷土ゆかりの作家を取り扱う展覧会や市民ギャラリーコレクションによるテーマ展示のほか、他の美術館等の協力のもと、幅広い時代や地域の作品を紹介する展覧会を実施します。
事務内容	作家及び作品調査、企画立案、作品借用事務、P R 事務、作品運搬委託事務、企画展示実施、アンケート集計、開催結果報告事務

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		11,059	15,720	16,599
事業費		2,239	6,270	7,149
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	1,103	3,510
	一般財源	2,239	5,167	3,639
人件費計		8,820	9,450	9,450
	正規（人）	1.40	1.50	1.50
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	・「穏やかなまなざし 杉浦桂子・日本画の 魅力」（14日間） ・「心が見た風景—心 に残る風景、心に描く 風景—」（9日間） ・安城市制65周年記 念事業「明治・大正・ 昭和 愛知の洋画家た ち」（26日間）	・「瀬畑亮 セロテー ブアート展2018 安 城」（25日間） ・「人々の暮らし」（ 9日間） ・「素材と造形美の融 合」（14日間）	・共同巡回展「見て、 感じて、遊ぼう！はん が遊園地」（33日間） ・「花のいろどり 草 木のみどり」（9日間） ・「心に響く風景画の 魅力」（14日間）

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

12 頁
令和元年 8月16日
19時20分58秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02595 市民ギャラリー企画展事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
観覧者数	人	5,300.00 5,742.00	5,500.00 13,088.00	5,700.00 0.00
アンケートによる満足度	%	85.00 87.00	85.00 86.00	85.00 0.00

【 定性評価 】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	安城ゆかりの作家を主に展示しているため必要性があります。		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	特別展は入場者も多く、ニーズがあったことが判断されます。		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	アンケートなど成果が得られています。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	1
理由	指定管理とも連携し、順調に進められています。		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	特別展では、受益者負担を考慮し、有料展示としています。		

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	特別展示では、初めて1万人に近い入場者数でしたが、収蔵品展示はやや入場者数が減少傾向にあります。企画に特色をもたせながら、来場者に満足いただけるように工夫して計画していきたいと思います。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。